

大学年報 編集後記

2015（平成27）年度の淑徳大学年報が、みなさまのご協力を得てこのほど発行に至りました。執筆や編集、取りまとめにとご尽力いただきましたことに深く感謝申し上げます。

皆様のご要望とご意見を踏まえ、本年報はPDCAサイクルを用いた自己点検・評価の仕組みに変更し、さらに9月発行となって4年目を迎えました。そして、電子ブック化へ移行して2年目となります。

今回の年報の特徴は、全学的に取り組んだ成果指標3か年計画（2013年度～2015年度）の総括を掲載している点と、自己点検・評価の継続性を高めるために各PDCAサイクルの冒頭に「次年度に向けた課題」（前年度年報で指摘事項）を掲載した点です。後者は、毎年同じ目標に終始しやすい現状を変えて、「今、ここ」で求められている課題を踏まえ、その改善のための歩みを進めていくために意識化しやすく改訂したものです。日々、変革が求められている大学のなかで、今年度は特にここに注力していこうという目標を明らかにさせていただくことが目的です。

このように年報の改革といえる取り組みの一方で、大きな課題も残ります。それは、年報の活用に関してです。本学の年報発行は「大学の自己点検・評価の一環である」ことを基本方針として、大学の教育・研究水準の向上および管理運営の健全化を図るために設けられた「大学自己点検・評価委員会」が実施するPDCAの取り組み結果をまとめ、公表することを目的としています。年報を作り上げていくことが大きな目的ではありますが、その活用法についてもさらに検討していかねばならない課題です。あらためて教職員の皆様、ならびに公開情報として年報をご覧いただいた皆様から忌憚りの無いご意見をいただき、本学の自己点検・評価のいっそうの推進につながるように活用してまいりたいと思います。

大学年報編集委員長 山口 光治